

2006年度 代表事業②

事業名

4月度第二例会「認証証伝達式」

～誕生～

委員会

認証証伝達式運営特別委員会

委員長：岡村 肇之

副委員長：長島 隆博

副委員長：海野 哲司

幹事：藤原 欣哉



事業趣旨要約

新たなJCとして、昨年6月の創立総会を経て、新設・静岡青年会議所が誕生し、12月には社団法人日本青年会議所の理事会において、782番の認証番号が授与されました。また、駿河青年会議所も、本年4月の蒲原町との合併を受け、共に活動していくこととなりました。社団法人日本青年会議所の正会員として授与される認証証伝達式を、設立にご協力いただいた皆様を静岡の地にお迎えし、誕生した喜びと感謝の気持ちが伝わるような感動的な認証式とします。そして、一度しか行われない認証証伝達式の重みをメンバー全員が受け止め、一致団結して開催することにより、県都LOMとしての責任と存在を力強く発信いたします。

背景

2003年4月、静岡市・清水市が合併し、新しい静岡市が誕生した。2005年4月には、政令指定都市へと移行していく時代の変化の中で、旧(社)静岡青年会議所と(社)清水青年会議所の両LOMにおいて、合併協議会を設置し、新しい静岡市におけるまちづくりを考えた上で、最善の方法を検討した結果、新設統合という道を選択した。

効果

「認証証伝達式」に最高の盛り上がりがるような演出をし、参加者全員が感動できるような演出を行う。

例会の流れ・目的

基本方針：『誕生』

新設・社団法人静岡青年会議所は、旧静岡青年会議所・旧清水青年会議所・旧駿河青年会議所メンバーが、チャーターメンバーとなり『誕生』する新設の青年会議所になります。一度しか行われない認証証伝達式は、新設するLOMにとって歴史の始まりであり、チャーターメンバーとして認証証伝達式を運営する私達は、新設社団法人静岡青年会議所を創っていく責任を持たなければなりません。そこで、コンセプトを『誕生』とし、先輩諸兄より受け継がれた私達の夢と希望が形になり『誕生』した喜びをメンバー全員がかみしめ、感謝の気持ちを前面に出し、厳粛で感動的な式典になるよう企画・運営いたします。また、祝賀会では、新設・社団法人静岡青年会議所の『誕生』を共にお祝いする場として、なごやかな雰囲気を出し、ご出席いただいたすべての方々と交流が深まるような祝賀会にします。

【認証証伝達式式典】

- 1 オープニングビデオ
 - 2 開会の辞 静岡青年会議所 副理事長 杉山茂之君
 - 3 セレモニー 国歌斉唱・JCSong斉唱・JCIクリード唱和・JC宣言朗読並びに綱領唱和
 - 4 来賓紹介
 - 5 日本青年会議所役員及来訪JC紹介
 - 6 来賓祝辞(県知事・市長) 石川嘉延様、小嶋善吉様
 - 7 日本青年会議所会頭挨拶 池田佳隆君
 - 8 東海地区協議会会長挨拶 村井浩一君
 - 9 静岡ブロック協議会会長挨拶 戸崎義人君
 - 10 清水JCIB会長挨拶 中山幹夫様
 - 11 静岡JCシニア会長挨拶 佐藤長己様
 - 12 駿河JCIB会長挨拶 望月元一様
 - 13 認証証伝達式・社団法人日本青年会議所会頭、池田佳隆君より社団法人静岡青年会議所理事長、鈴木秀幸君に認証証伝達
 - 14 ビデオ(設立経過報告)
 - 15 理事長挨拶
 - 16 設立宣言文朗読 静岡青年会議所 常任理事 藤田圭亮君
 - 17 閉会宣言 静岡青年会議所 監事 上条弘素君
- 【認証証伝達式 祝賀会】
- 1 開会の辞 静岡青年会議所 副理事長 清水雅之君
 - 2 開会挨拶 静岡青年会議所 理事長 鈴木秀幸君
 - 3 祝辞(日本青年会議所会頭(池田佳隆君)東海地区ブロック協議会(村井浩一君)静岡ブロック協議会(戸崎義人君)日本青年会議所規則委員会(清水賢一君))
 - 4 歓談・歓談中、来賓の皆様が静岡を知って頂くため、ステージスクリーンで静岡を代表するお祭り(港かつぱれ・夜桜乱舞)ビデオを上映した。
 - 5 祝電披露
 - 6 アトラクション サプリミットによるパフォーマンス披露 新・静岡市をPR出来るアトラクションとして大道芸ワールドカップでも功績のあるサプリミットを選定した。
 - 7 一本締め 静岡青年会議所 監事 上条弘素君
 - 8 閉会の辞 静岡青年会議所 副理事長 落合孝彦君

所見及び目的達成の検証

2005年6月に設立総会が開催され、2005年12月3日の日本青年会議所理事会にて782番目のLOMとして新設静岡青年会議所が日本青年会議所の一員として承認され、2006年1月1日から新設静岡青年会議所はスタートをしたわけですが、3ヶ月という短い期間の中で、認証証伝達式開催に向け、2000名以上の招待状の発送取りまとめ、東海地区内会員会議所へのPRキャラバンの実施、事業内容の企画とあわただし3ヶ月でした。その中で、私たち認証証伝達式運営特別委員会に求められていたもので、「静岡青年会議所チャーターメンバー」であるという意識付けを、理事長をはじめとする理事のみならず求められておりました。認証証伝達式には、平日にも関わらず全国各地からのご来賓・JC関係者にご臨席いただき、認証証を授与された新設静岡青年会議所の歴史の1ページに立ち会うことができた新設静岡青年会議所全メンバーは、きっとチャーターメンバーとしての意識を自覚していただけたと感じています。

目的

・新設静岡青年会議所が社団法人日本青年会議所の一員になったことを「認証証伝達式」を通じて、内外に発信する。
・社団法人日本青年会議所の一員となり、来訪JCメンバーの皆様と交流・親睦を深める。

事業概要

日時場所：2006年3月29日18時から21時 グランシップ
参加人数：一般来賓、JC関係者 (結果、約400人)
事業総額：6,212,265円



担当委員長Q&A

01 IJLLOMの考え方の違いから衝突もあったと思いますが、苦勞された点をお教え下さい。
また、どのようにして委員会をまとめたのでしょうか？

旧3LOMでLOMは違っても、2006年より以前から出向先で会っており、すでに顔見知りの方も多くいました。伝達式というのは、JC規定でマニュアルも存在し、誰を招いて何をしなければならぬかも明記してあります。ただし、3年前位から裏では動いて準備していました。2005年に清水事務局、2006年には日本総務委員会副委員長を務め、日本JCとのパイプを強化していました。規定にある決まったことをやっただけ、意見の大きな衝突というはありませんでした。衝突した点というのは細かな点で、例えば、来費からのお金の徴収方法で、IJLOMごとに違いました。清水では祝儀として、静岡では招待として、ちなみに三島では会費としていました。会費制度がよいと考えて、先に行なわれる予定の1月例会でも、会費制度にすべきと1月例会の担当である芦沢委員長と協議しましたが、結果は1月例会では招待で、伝達式では会費制度となりました。

委員会メンバーは、会員から集めた大切なお金を使って開催する点、先輩方が集まる点、その重要性をわかって行動してくれていました。

03 「認証証伝達式」「理事長挨拶」に式のピークを持って行くためにどのような工夫をされましたか
ピークをもっていくイメージではなく、なぜ合併して新しいLOMとなったかを、ビデオでわかりやすくする点を工夫しました。

02 静岡青年会議所全メンバーに対してどのようなアプローチで開催意義を伝達されましたか？

伝達式として議案を1つにすると、行動が遅れてしまうため、「PRするための議案」と「伝達式の議案」を分割しました。そのため、早くから行動でき、議案として全メンバーに把握してもらえました。日本JCでも、京都会議でも、サマコンでも、1つのイベントに1つの議案ではないですね。数十議案がまとまって、ひとつの式典になっています。今後の静岡JCでも、議案を1つにするのではなく、広告や募集が必要な場合は、時期的なものもあるので議案を分けて協議すべきですね。

04 例会前後での静岡JCメンバーの感情はどのように変化していったと思われますか？
また、一般来賓、JC関係者来賓からの評価はいかがでしたか？

アンケートを実施していないのではっきりとはわからないのですが、錚々たるメンバーが来ていただけの点を、メンバーもわかって行動してくれました。そもそも、新設1年目というのは、IJLOMで理事を経験した方が多く、委員会メンバーでも理事経験者がいて、意識の高いメンバーが最初から前向きに行動してくれた。新設に反対していた方は、退会する方もいたため、集まっている方々は、前向きな考えでいました。

05 例会前と例会後での岡村委員長の気持ちはどのような変化がありましたか？
当初、プログラムされたものをこなすだけで良いと思っていました。しかし、合併・認証式のために、日本に出向して総務副委員長を務めたため、個人としてはその後の活動が大きくなりました。



取材全体としてのまとめ・感想
合併から認証式までの経緯を、包み隠さず率直にお話して頂けた。

取材前後での特に気付いた点
貴務を果たすために、日本に出向したり表面に出ないところで活動されていたことを知った。